




A.A.C (コミュニケーションの補助・代替手段)

南大阪療育園心理判定員 広川 律子

今回は現在、日本で用いられているAACのひとつである「サウンズ アンド シンボルス (The Sounds and Symbols、以下S&Sと略)」についてご紹介しましょう。



S&Sは1970年代初めに、オーストラリアのThe Spastic Centre of NSWの心理学者 Miss.Brereton らによって開発されたAACです。この頃、北米、ヨーロッパでも、多くのシンボルボードを主体にしたAACが生まれました。その背景には、障害者の社会参加や、マイノリティーの人々の言語や文化の尊重といった権利擁護の気運のたかまりがありました。つまり、障害者の言葉に非障害者が歩みより、相互理解を促進し、障害者のコミュニケーションを保障しようという考えにもとづくものでした。S&Sは1981年に広川によって日本に紹介され、現在多くの肢体不自由児の養護学校や施設で活用されています。

さて、S&Sは、図1. に示すように32個のシンボルによって構成されています。各シンボルにはかなり広い範囲の意味が含まれています。例えば、 は男の人全部、お父さん、兄弟、先生、友達、運転手さん、そしてボク、などを表します。話し手(障害者)はこれらのシンボルの意味を学習し、指さしや視線など随意的に動かせる部位を最大限に利用して意思表示をおこないます。

シンボル文の例 質問—きのうはどこへ行ったの?



ボク お母さんと 車で 動物園にいったヨ。

もちろん、聞き手の解釈はこの際、決定的な役割をはたします。聞き手にはかなりの勘のよさ=sensitivity が要求されることとなります。そうはいつても、シンボルだけではわかりにくい時もあります。また使用する子ども自身も、シンボルの意味を特定したいと思うようになります。そんな時には、図2. に示すシンボルボードにすすみます。そして、シンボルに語頭音をつけると次のように、より意味限定的な表現が可能になります。



オリックスの イチローは 今年も すごい。

しかし、シンボルはあくまでも、替わりのことばです。話しことばや書きことばには到底かなうものではありません。お話ししたいという本人の意欲と、聞き手の熱意に支えられてこそことばとしての機能を果たすものなのです。

他方、シンボルの学習が、まだ難しい発達段階の人達の場合はどうすればいいのでしょうか。情緒的交流を主体にしたコミュニケーションの力は生後まもなく芽生えてきますが、ことばや道具だてを媒介にした方法が、意味を持ち始めるのは乳児期後半からといえます。図3. 4. はコミュニケーションブックと呼んでいるものです。子どもをとりまく人々、お気に入りの玩具、行きつけのお店、大好物、親戚の家などの写真やイラストを貼り付けて、オリジナルの本を作ってあげます。この本を使って楽しく“おしゃべり”する子どもいれば、コミュニケーション練習を始める子どももいるでしょう。

コミュニケーションの力を育てるために、まず大切なことは、私達、指導にあたる者や親がよき聞き手になることです。子どものちょっとしたしぐさや視線、それがどんなに不器用でも、子どもの気持ちを表すことばに翻訳できること、シンボルのような替わりの手段であっても子どもの思いにより添う生きたことばにできること、そんな聞き上手に支えられてこそコミュニケーションの意欲と力は育ち、AACはことばとして生きるのです。



〈その2〉



図1 S&Sシンボルボード



図2 S&S文字盤付シンボルボード



図3 ぼくのしんせき



図4 ぼくのいきつけのお店



図5 シンボルのおはなしは楽しいヨ



図6 シンボルにひらがなをつけるとわかりやすくなるヨ

なお、S&Sコンピュータプログラム（ARTS製）は商品名「とーくでっせVer. 1」（E991）定価39,800円として当社にて販売しています。